

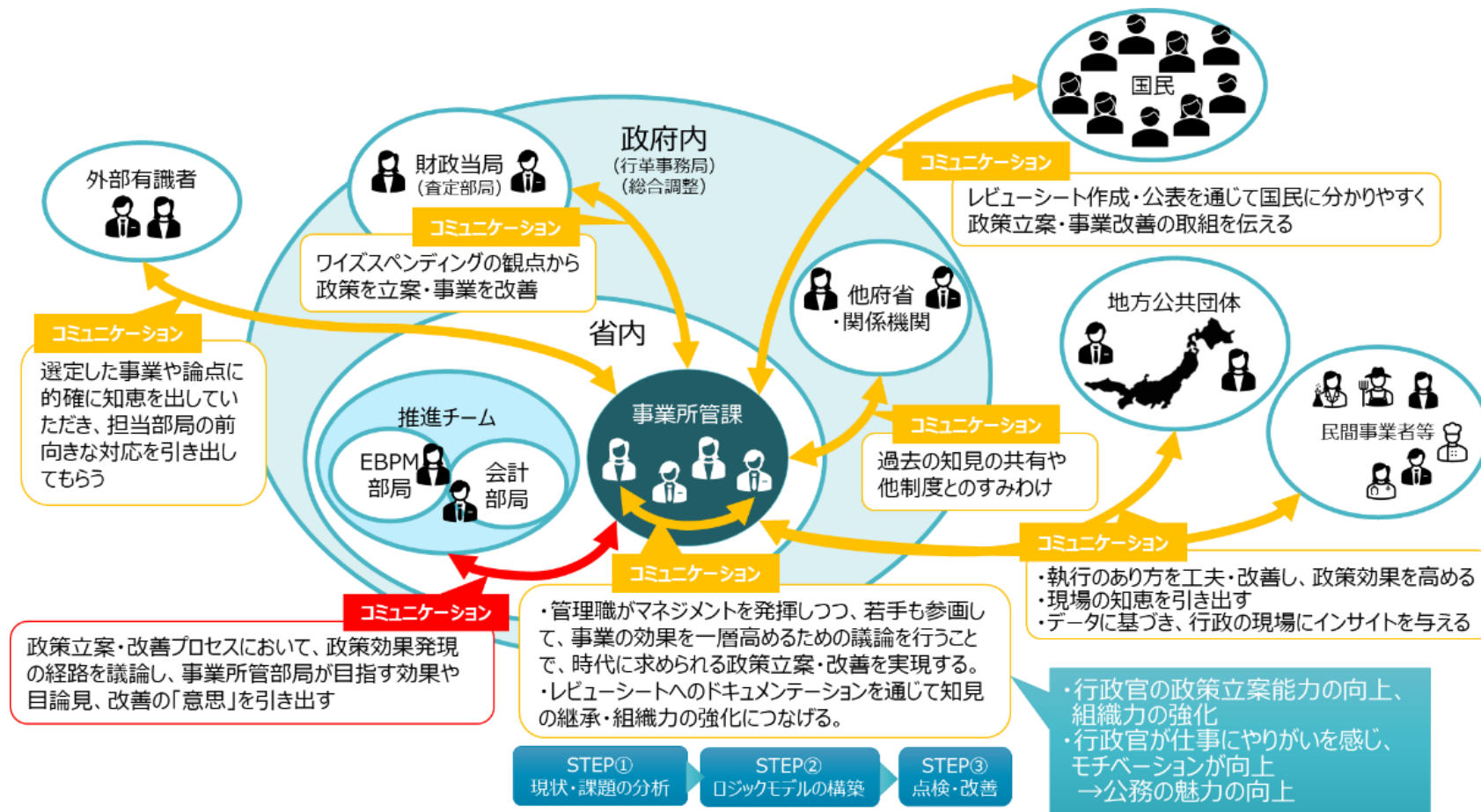


新しい技術とこれからの行政

2025年6月6日
行政改革 学生アイデアソン・
ハッカソン Kickoff Day

PHP総研主席研究員
立教大学大学院特任教授
亀井善太郎

変化の時代、コミュニケーションを進めるEBPMの実践が不可欠に



変化の激しい時代、政策の効果をさらに高めていくため、どんなコミュニケーションが必要なのか見極めていくことがますます重要に

- 「行政のはたらきかけに対する社会の応答」である多様なエビデンスをしっかりと集め、政策の次なる改善に活かす
- ロジックモデル・レビューシートをコミュニケーションモデルとして活かす

旧来型の説明責任ばかりの防御的コミュニケーションばかりではなく、政策の質を高め、行政の力も向上させていく創造的コミュニケーションを実践していく。

いま求められるのは必要性や効率性よりも有効性

A. 事業の「必要性」に着目した検討

- 「〇〇法や閣議決定に基づいて…」
- 「最近、深刻になってきています…」

予算獲得、インプット志向が強すぎる
聴き手からすれば「そこはわかっています」

「大切なのは、それでどうするか」
カネつけるだけの
かつての補助金行政

B. 事業の「効率性」に着目した検討

- 「きちんと競争入札して…」
- 「段階的に政府負担を減らしながら…」

ムダ削減から攻める有識者も皆無ではないが、いま
どき、それでは政策や事業はよくならない

それだけでは、現代社会が求める本来の行政の役割
を発揮できない

そもそも担当課内でもできるはず
平成の事業仕分け

C. 事業の「有効性」に着目した検討

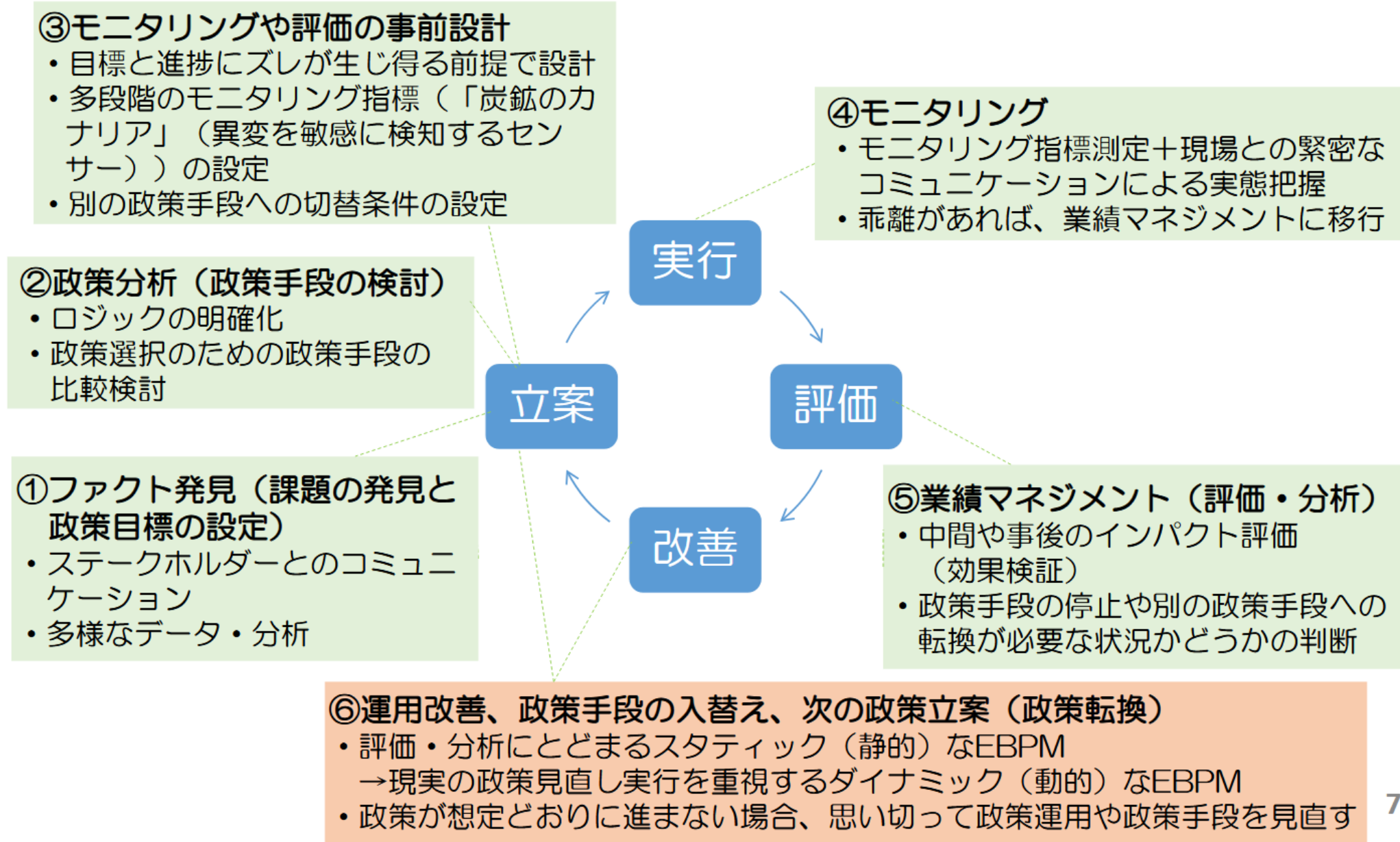
- 目的達成のため、より効果の高い方策は？
 - 事業を進め見えてきた成果を踏まえた改善
 - 政策が想定どおりに進まない場合、思い切って政策手段の入替えや、別の政策に転換
- 直面するボトルネックは何か、どう越えるか？
 - 事業が導き出すアウトプットから、政策目的の対象に起きる望ましい変化であるアウトカムをいかに引き出すか
 - 当初のアウトカムをいかに拡大し、中期や長期のアウトカムにつなげるか
 - アウトカムやインパクトの創出にこだわる

そもそも、政策や事業の対象である社会は多様で課題
解決は難しいことを前提に知恵を出し合う

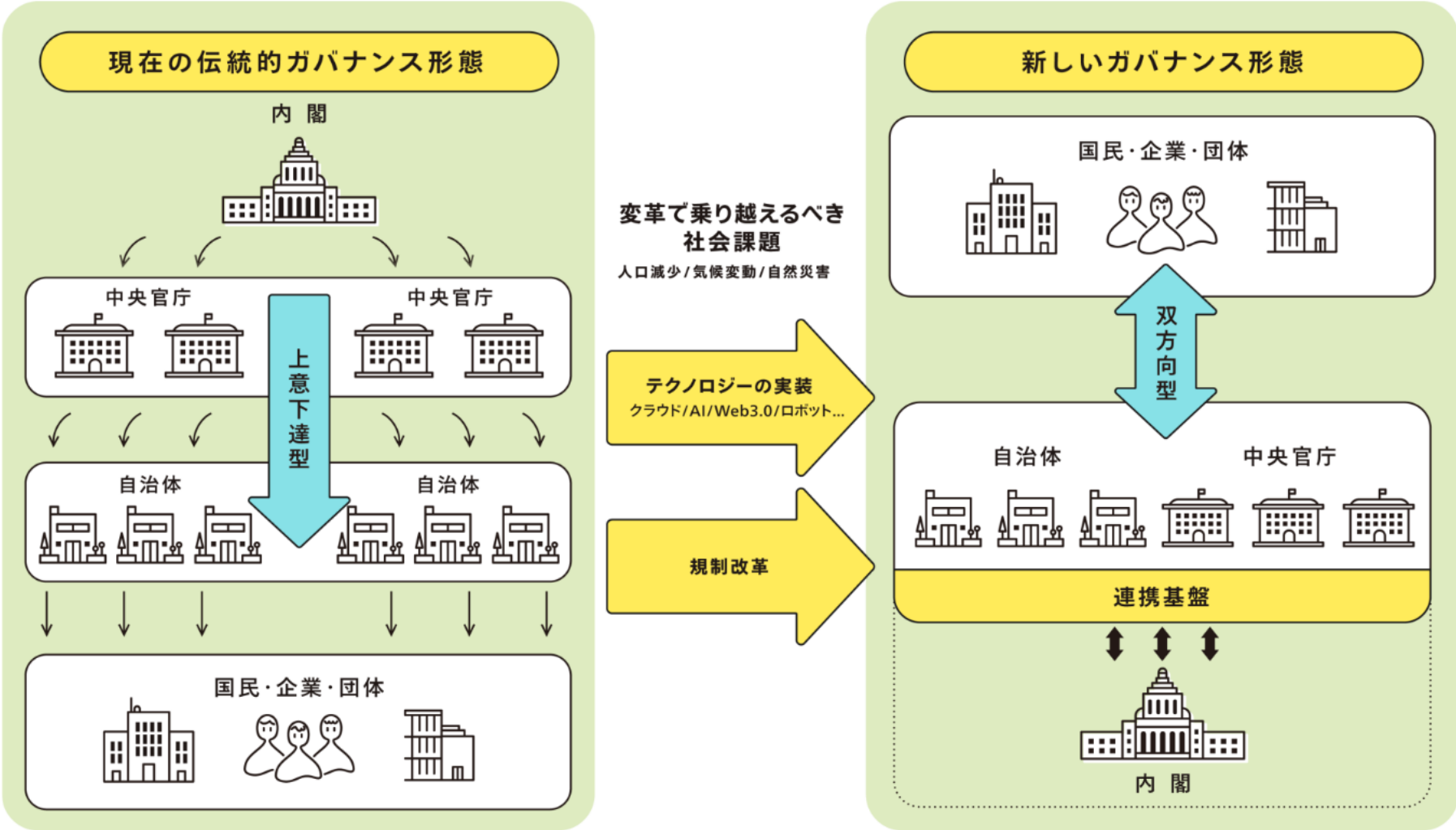
複雑で変化の速い社会であっても、政策立案の精度を
さらに向上させ、しっかりと結果を出せる行政に

やるべきはこれ!!

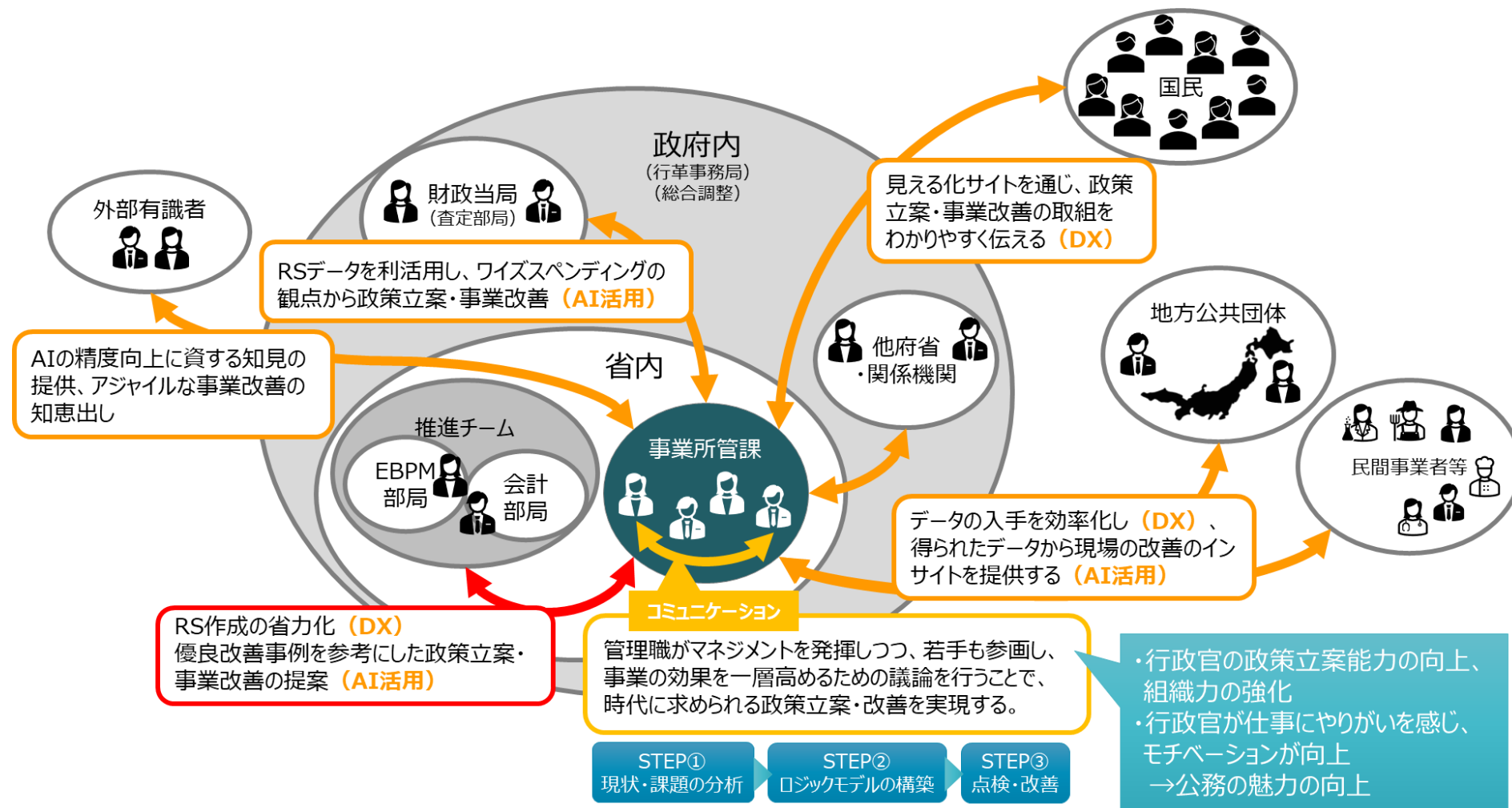
機動的で柔軟な政策形成・評価を行う上で留意すべき点 (政策を機動的で柔軟に立案・修正できる政策サイクル (PDCA) の確立)



デジタルを活かした新しいガバナンス形態



新しい技術を活かし、行政を担う人が進化・深化して、結果を出せる行政に



行政を担う「人・チーム」が自らの役割を再認識し、新しい技術の可能性を引き出すことが不可欠に。